

**製品名: UNC5C ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab19633**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	102kDa

**抗原情報**

遺伝子名	UNC5C UNC5H3
別名	
遺伝子 ID	8633.0
SwissProt ID	O95185
免疫原	ヒトタンパク質由来の合成ペプチド。AA 範囲: 60-140

**背景**

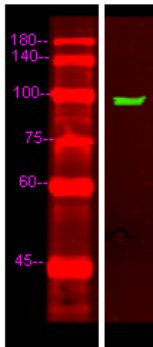
この遺伝子産物は、ネトリン受容体の UNC-5 ファミリーに属する。ネトリンは、神経発生過程において軸索伸長と細胞移動を誘導する分泌タンパク質である。ネトリンは、ある種の細胞に対しては誘引剤として、また別の細胞に対しては忌避剤として作用する二機

能性タンパク質であり、これらの相反する作用は2種類の受容体によって媒介されると考えられている。UNC-5ファミリー受容体は、ネトリンに対する忌避反応を媒介する。これらは、細胞外領域に2つの免疫グロブリン (Ig) 様ドメインと2つのI型トロンボポンジンモチーフを含む膜貫通タンパク質である。[RefSeq 提供、2008年7月]、機能: 軸索誘導に必要なネトリンの受容体。発達中の神経系において、リガンド結合時に神経細胞の成長円錐の軸索反発を媒介する。成長円錐における軸索反発は、反発シグナル伝達を誘発する可能性のあるDCCとの関連によって引き起こされる可能性がある。DCCとは独立して皮質脊髄路軸索誘導にも関与する。また、ネトリンリガンドと会合していない場合は、アポトーシス誘導に必要な依存性受容体としても機能する。、その他: 大腸がん、乳がん、卵巣がん、子宮がん、胃がん、肺がん、腎臓がんなど、複数のがんにおいて発現が低下している。、PTM: 細胞質の様々なチロシン残基がリン酸化される。Tyr-568のリン酸化はPTPN11ホスファターゼとの相互作用を引き起こすことから、その活性はリン酸化/脱リン酸化によって制御されていると考えられる。チロシンリン酸化はネトリン依存性である。、PTM: アポトーシス誘導時にカスパーゼによってタンパク質分解的に切断される。受容体がネトリンリガンドと会合している場合は、切断は起こらない。アポトーシス誘導にはカスパーゼによる切断が必要である。、類似性: unc-5ファミリーに属する。、類似性: デスドメインを1つ含む。、類似性: Ig様(免疫グロブリン様)ドメインを1つ含む。、類似性: Ig様C2型(免疫グロブリン様)ドメインを1つ含む。、類似性: ZU5ドメインを1つ含む。、類似性: TSPタイプ1ドメインを2つ含む。、サブユニット: DCCの細胞質部分と相互作用する。、組織特異性: 主に脳で発現する。腎臓でも発現する。発達期および成人の肺では発現しない。、

## 研究分野

軸索ガイダンス;

## 画像データ



Hela 細胞溶解のウェスタンブロット分析。一次抗体は 1:1000 希釈。二次抗体は 1:10000 希釈。